

■川上冬崖 洋画家・地図製作者。日本人で初めて洋画法を研究し私塾を開設、官職では洋風地図作成に先鞭。

かわかみとうがい

日本外史・・・1827＝ 信濃国松代郡福島新田村で、山岸瀬左衛門の2男3女の末子に生まれる。母しげ。幼名斧松。

・・・・・・1836＝ 9歳：

大塩平八郎乱1837＝10歳：

適塾ホヰン・1838＝11歳：この頃、親戚に奉公に出されたが、すぐ逃げ帰ったという。

蚕社の獄・・・1839＝12歳：母の実家須坂領墨坂神社宮司山岸美濃守のもとで藩塾教諭舎に学び、皇学・漢学を修める。

天保改革弾圧1842＝15歳：松代の神官小河原紀伊守に望まれて養子になったが、

立身の志強く、

阿部正弘首座1845＝18歳：出府して、上野寛永寺御用達久松磯五郎に奉公、傍ら大西椿年に南画を学び、

・・・・・・1847＝20歳：寛永寺東円院の小従となつたのち、四条派の大西椿年に画才を認められ、弟子となって太年と号し、円山応挙派の渡辺南岳にも師事。

嘉永年間には蘭学も学び始め、西洋画の陰影法に注目し、傾倒していく。

尊徳報徳論・1851＝24歳：幕府御家人株を買って、川上仙之助の養嗣子となり、その娘武良子と結婚、川上万之丞と名乗る。

ペリー来航・1853＝26歳：

開国開港・・・1854＝27歳：

これらの実績を踏まえて、

松下村塾・・・1856＝29歳：洋学所が改称された蕃書調所に仕出したらしく、それまでは南画しか描いていなかったが、

蕃書調所・・・1857＝30歳：*蕃書調所に絵図方が置かれると、絵図調出役を命ぜられ、横山由清訳「魯敏遜漂流行紀略(ロビンソン＝クルーソーの紹介)」の挿絵で初めて洋画を描き、ペリー来航に随行した画家ハイネの「日本行記」の挿絵を模写して、老中から賞賜、調所頭取らは教授に任命しようとしたが、財務当局が画絵は学問と認めないため、

桜田門外変・1860＝33歳：

遣欧使節・・・1861＝34歳：蕃書調所に(西洋画学の研究などを)画学局を設置して、画学出役とされる。

生麦事件・・・1862＝35歳：蕃書調所が一橋門外に移転し、洋書調所と改称。画学局には高橋由一らが入局し、門下になっていく。

8月18日政変 1863＝36歳：洋学調所が開成所と改称され、その画学局画学出役。

この間、来日していた英紙特派員で絵も描けるワーグマンらから洋画指導を受け、

薩摩藩士密航1865＝38歳：將軍家茂の征長軍に随行して大阪へ上り、砲台の図の描写や將軍の視察写真などを撮影する。

薩長同盟・・・1866＝39歳：開成所人名録に、画学教授出役と出ている。

明治維新・・・1868＝41歳：維新後、將軍慶喜の駿府退去に従い、創設された沼津兵学校の絵図方に招かれるが、新政府によって再興された開成所の筆生となり、東京へもどり、

版籍奉還・・・1869＝42歳：下谷御徒町に*日本初の洋画塾(聴香読画館)を設け、アトリエを{無辺春色画展}と呼ぶ。

初の日刊新聞1870＝43歳：大学南校に出仕して図画御用掛となり、また、内田正雄編纂の地理書「奥地誌略」の銅版挿絵を描く。

廃藩置県・・・1871＝44歳：文部省が設置されると、大学南校を退いて、編輯寮に出仕、学課翻訳掛となる。西洋画の指導書「西画指南」をまとめ、前2編が大学南校発行される。多色木版「大日本地図」を刊行。

学問のすすめ1872＝45歳：文部省を退いて、陸軍省兵学寮に出仕、一番弟子小山正太郎らとともに石版印刷研究に挑む。

明治6年政変 1873＝46歳：銅版手彩色「地図彩色」を刊行。

佐賀の乱・・・1874＝47歳：陸軍士官学校図画教授掛を命じられ、生徒の習画用にと、石版印刷で「写景法範」を刊行。

初の民間工場1875＝48歳：文部省から「西画指南」後3編が刊行される。

三つの内乱・1876＝49歳：陸軍省参謀局第5課に転任。天皇の東北・北海道巡幸に、小山正太郎を同伴して随行し、沿道を写生し、

西南戦争・・・1877＝50歳：第1回内国観業博覧会の美術部の審査主任となり、菊池容斎ら伝統的作品のほか、五世田義松、高橋由一、山本芳斎らの洋画も一堂に会して、賞賛を浴び、

大久保暗殺・1878＝51歳：*陸軍参謀本部が設置されると、地図課に出仕、地図指導書「地図彩色」を刊行、洋風地図製作のパイオニアとなり、{聴香読画館}も隆盛を極めて行くが、

・・・・・・1880＝53歳：*軍用地図の清国流出事件で嫌疑がかけられ、フェノロサによる日本画復興で洋画排斥機運が生じるなか、

明治14年政変1881＝54歳：第2回内国勸業博覧会の美術部審査主任をつとめたのち、熱海の旅荘で、*謎の自殺を遂げた。

没後、嫌疑は晴れている。「地図彩色」「写景法範」ほか地図など多数。